

# ローラー導子を使用した症例

○藤原 祥了<sup>1) 2)</sup>、鈴木 貴司<sup>1) 3)</sup> (1) 日本柔道整復接骨医学会物理療法分科会、2) 板橋支部、3) 墨田支部)

**Key words** : ローラー導子、QOL

## 1. 諸言

物理療法機器の中では最も使用頻度の高い「低周波」について症例報告を行います。私達柔整業務には低周波は干渉波と並び疼痛緩和・除去や捻挫や骨折後の機能回復には効果の高い物理療法機器として多用されています、また物理療法の書物には「各種神経マヒ」などの際にも使用されることが記述されております。現在市販されている低周波機器の導子はバンド等で患部を一定時間固定し通電をするという方法で施術を致しますが、今回使用する導子は「ローラー導子」と言い、術者が患部に導子を当て一定範囲を移動させて通電する方法を取り施術を行うものです。現在は患部に1カ所とその上部神経及び筋部に導子を装着して通電致しますが、これは、ローラーにプラス・マイナスが装着されているものです。ローラー導子の使用は固定導子とは違った効果や従来と異なる方法も検討すると、様々な効果が期待出来ると思います。

今回は通常時「低周波」を使用されている先生方も、例えばご苦勞されている施術に「ローラー導子」を使用することにより好い結果が出れば幸いですので、興味のある先生は一度試みてはいかがでしょうか。ローラー導子は以前は使用されましたが、近頃ではあまり使われなくなりました。

それは、「良い」「悪い」というより、「使い易い」「使いにくい」という両方の面を持ち合わせています。

使い良いは・・・①固定しにくい部位を通電出来る②負傷・損傷部位が長いであるとか、広い部位に便利である。

③通電しながら強度を変えられるので、本人や筋収縮の程度が把握出来て、効果を見ながら施術出来る。

悪い点は・・・①通電する際には術者が一定時間患者様に付き添わなければならない。②多部位の場合いに通電する時間が長時間を要すなどが挙げられる。

通電時間は5分～7・8分を目安にするが、時には施術者は同じ姿勢で施術をするので多少苦勞をする。時間はあくまで目安なので、長時間よりは10分前後が適当かと思いません。

## 2. 方法

導子は「ローラー導子」と言い、かつて自分の施術所にあった物を再度修復して使用出来るように専門業者に依頼して、また、このローラー導子が使用出来る低周波機器も修理をして戴いた。機器業者の方もこの様な機器を覚えており興味を持って協力して下さいました。

それでは、低周波ローラー導子を使用する対象をどの様な患者さんにしたかという点、①固定導子の使用しにくい部位の患者さん ②損傷部位及び疼痛で患部が広範囲に及ぶ方③屈曲面を負傷している方 などを選出して、1部位

約5分から7・8分内で通電をした。

## 3. 結果

「低周波ローラー導子」を使用した方は通常施術の一端なので結果は顕著に現れないが、固定導子よりは広範囲の施術により経過は良いとの事で、もう少し症例を積み重ね、種々の損傷に、どの様に対応したら最良の結果が出るのかが興味ある課題かと思えます。「低周波ローラー導子」を使用した結果は、アキレス腱炎・手指腱鞘炎・腰部痛、肩関節周囲炎、下腿・腿筋などが良好ではないかと推移した。

## 4. 考察(まとめ)

私達、柔道整復師は日々施術に対して貪欲に患者様に対して、新しい方法を模索して一日でも早く、少しでも楽にと「QOL」を念頭に施術をしております。この「低周波ローラー導子」もかつて使用した方法で改めて使用してみた、それだけでも患者様は私達の努力と信念にお礼をいうに違いない、私達は毎日、毎日が患者様と対峙してプライマリーケアの一端を担う者としての自負を感じなければならない。之が今後の柔整師としての役割ではないかと思う。

## 5. 総括

施術方法は先生方の工夫によりどうにでもなることと思えますので、その人に合った施術をしてあげることが大切だと思います。今回使用致しました低周波機器・ローラー導子もそのうちの一つですが、柔整業務には原因、年齢、体力、等により施術方法も異なり、多々あります。多種多様な施術方法により一人でも多くの患者様を治癒に至らしめるのは、私達術者にとっては大変な喜びです。日々苦勞することも明日へ繋がる今日だと思ひ皆様も頑張るって下さい。

## 6. 考察(まとめ)

私達、柔道整復師は日々施術に対して貪欲に患者様に対して、新しい方法を模索して一日でも早く、少しでも楽にと「QOL」を念頭に施術をしております。

また、私達の「柔道整復師」は骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷(骨折・脱臼は医師の同意を得て施術する)の業務範囲として、毎日施術を行なう。

施術については、整復、手技療法、冷・温湿布、電気・光線、(物理療法)、等により上記の新鮮外傷及び亜急性の部位を施術するもので、それぞれ異なる患部を最良な方法を取捨選択をして施術するもので、

## 7. 総括

長年開院をしてきて、地域と密接になり、患者様のココロの中に入る事が、何か事が起きた時にも信頼関係を築くことが大切に感じます。